

学校環境衛生検査表

(教室の空気)

学校長様

検査年月日	年	□	月	日	時刻	時	分	天候
教室名	構造	1.木造 □ 2.RC			窓枠	□ 1.サッシ □ 2.その他		
教室の容積	間口	m ×	奥行	m ×	高さ	m =	m ³	
冷暖房器具の状況	□ 1.使用中 □ 2.なし			冷暖房器具の種類				
換気扇	□ 有 (□ 1.使用 □ 2.不使用) ・ □ 無							
在室人員	児童生徒	人	教職員	人	排気筒設備	□ 1.あり □ 2.なし		
検査項目	成績				判定基準			
温度	室内測定開始時		°C	18 °C以上、28 °C以下であることが望ましい。				
	室内測定終了時		°C					
相対湿度	室内		%	30～80%であることが望ましい。				
	二酸化炭素(CO ₂) ^{※1}		温度					
外気		ppm	°C	(外気は約400ppm程度)				
廊下等()		ppm	°C	※この項目は省略することができる				
()分後		ppm	°C	1500ppm(0.15%)以下であることが望ましい。 ※4				
窓の開閉状況		ppm	°C					
()分後		ppm	°C					
()分後		ppm	°C	6ppm以下であること。				
窓の開閉状況		ppm	°C					
一酸化炭素(CO) ^{※2}	発生源	分後	ppm	0.06ppm以下であることが望ましい。				
二酸化窒素(NO ₂) ^{※2}	発生源	分後	ppm					
浮遊粉塵 ^{※3}				0.10mg/m ³ 以下であること。				
気流 ^{※3}				0.5m/秒以下であることが望ましい。				
考察	□							

※1 二酸化炭素濃度測定は、授業開始前から授業終了時まで継続的に行うことが望ましいが、測定回数を1回とする場合には、二酸化炭素濃度が高くなる授業終了直前に行うこと。

※2 燃焼器具を使用していない場合に限り、検査を省略することができる。

※3 必要と認める場合に検査を行う。

※4 ビル管理法では1000ppm以下が望ましいとされている。

検査担当学校薬剤師氏名：